

## 人権感覚を高める～中央中学校 人権学習週間スタート～

12月10日の「世界人権デー」、法務省が定めた12月4～10日の「人権週間」にあわせて、中央中学校でも集中して人権学習に取り組む人権学習週間が本日からスタートしました。この一週間の様々な学習を通じて生徒たちは人権感覚を高めていくこととなります。その皮切りとして、全校集会で寺島が以下の人権講話を行いました。いささか長い話となりましたが、お目通しいただければ幸いです。

この時間はみなさんに人権のお話をします。人権については、中央中でも集中学習を行っています。日本全国の小・中学生が12月上旬の人権週間に合わせて同じような学習を行っていると思われる。小学校時代のみなさんも、ちょうど今の時期、人権の勉強をしていたはずだと思います。

それにしても、なぜ、私たちは、人権学習を毎年繰り返し勉強しなければならないのでしょうか？

それは、人々が人権の大切さに気が付き、それを学ぶようになってから、まだそれほど時間が経っていないということが関係していると思います。植物に例えて言えば、人権は、根付き方が弱く、少しの風でも簡単に吹き飛ばされてしまう木の苗のようなもの、と考えることができます。実際、国連が世界人権宣言を定め、世界に向けて人権の大切さを唱え始めたのは1948年で、今からわずか70年前のことに過ぎません。その3年前に終わった第二次世界大戦で5,000万人以上もの命が奪われた。失った末にようやく辿り着いた認識です。でも、注目されるようになって日が浅い。浅いな残っているのが現実です。また、人権を大切にしているはずの先進国でさえ、人々の心に余裕がなくなると、あっさり無視され、真先に踏みつけにされてしまっているのが人権の実態なのです。だからこそ、私たちは人権について繰り返し学ぶ必要があると言えるのでしょうか？

実際、世界の最近のニュースを見ても、弱い立場にいる人や傷ついた人ほど、更に傷つけられ、差別されることになってきている。幼い子や障害を持った人、お年寄りなど真先に助けられなければならない人ほど攻撃され、責められることが多くなってきました。自己責任とか格差社会という優しさ、温かさのない言葉が目につくようになってきました。

それでは、人権が大切にされる世の中にしていくために、私たちは何をすればよいのでしょうか？それには、まず、私たちの原点をしっかりと確かめておく必要があると思います。私たちの原点とは何でしょうか？

思いっきり時間をさかのぼってみましょう。それはサルです。(私の専門は国語なので、理科や社会に関係したこの後の話には間違いがあるかも知れませんが、もし間違いがあったら授業の中で両教科の先生方から正しい話を聞いてください)現代の科学において、人類はサルから進化したと考えられています。DNAの分析によるとチンパンジーとはほとんど同じで、違いはわずか1～2%しかないという考え方もあります。(これを否定する考え方もありますが)

それでは、私たちは、なぜチンパンジーにはならず、人間になったのでしょうか？その理由は、私たちの弱さにあると言われていたように思えます。

人類誕生の大きな流れはこんなものだと思います。私たちの先祖もチンパンジーやゴリラのご先祖様と同様、もともとは木の上で暮らし、果物などを食べていた。ところが、気候が変わり、森が減って来た。限られた食料を巡る競争が始まり、それが敗れて森を追い出され、木のまばらな草原に追いやり始めた。ヒトのご先祖様でした。ただ、その際物を言ったのが、それ以前から始めていた二足歩行でした。二本の足で歩くと手が自由に使える物を運ぶことができます。そうなる必要は、子育て中の雌が、食べ物を求めて肉食獣のいる危険な草原をさまよう必要がなくなりました。雄が雌に食糧を運ぶようになった結果、雌や子供の生存競争の予選を勝ち上がったと言われていたように思えます。

弱さがある一つあります。チンパンジーが持っている私たちが持っていないものは何かわかりますか？歯です。チンパンジーにもゴリラにも歯はあっていますが人間にはないのです。私たちの先祖も歯を持っていないし、持っているとしても、とても小さなものでした。そもそも歯は何のためにあるのでしょうか？思いつくのは「肉を食べるため」ですが、私たちは肉を食べるのに歯を持っていないです。…じつは、

